

巻頭言 「GCP10期生を迎えて」 GCPディレクター 西浦昭雄……1

[GCP] GCP10周年特集 —データに見るGCPの学び—
卒業生の活躍、現役生の学び……2 - 4

[SPACE] 2019年度春期についての報告……5

[WLC] 2019年度春期の活動／教員の紹介……6

[CETL] 大場副センター長就任挨拶……7

FD・SDセミナー：第1回～5回の報告／今後の計画……7 - 8
新任教職員紹介……8

GCP10期生を迎えて



GCPディレクター 西浦昭雄

本年4月にグローバル・シティズンシップ・プログラム（Global Citizenship Program；以下、GCP）の10期生が入学した。創立50周年にむけたブランドデザインの柱の一つとして2010年4月に開設したGCPは、看護学部と国際教養学部以外の6学部（経済、経営、法、文、教育、理工）の入学生から希望者を募り、2段階選抜で約30名が合格する学部横断型オナーズ・プログラムである。第2次選抜では英語ライティング、小論文、面接試験に加え、全新生が受けるプレースメントテストとTOEICの結果を加味するなど多面的に評価している。GCPのセレクション・ポリシーには、「GCPに応募する学生に求められているのは、学生時代に徹底して学ぼうという強い意欲と好奇心、思考力や応用能力、そして地球市民（Global Citizenship）の一員として、世界平和のため、人々の幸福のために貢献しようとする大きな志です」と明記している。

学生は、主に最初の2年間で各学部のカリキュラムと並行してGCP独自の科目群を履修し、32単位を修得して修了する。GCP科目群は、週4時限の英語科目、問題解決能力や分析力を培うプログラムゼミ、数理能力を養う社会システムソリューション、少人数で専門科目の基本的な考え方から進路指導まで行うチュートリアルからなる。また、1年次の秋学期のプログラムゼミⅡと連動し、春休みには給付型奨学金でフィリピンに2週間の海外研修を実施している。また、2年次の12月にはGCPの学びの集大成の場として公開型の成果報告会を開催している。昨年からは、その成果報告会の内容をもとに、ビジネスや公共政策の実務につく卒業生との討論の場を設けている。

私は幸運にもGCPの準備段階から携わることができた。教育に対する熱意あふれる約20名の教職員が一体となり、「自分たちが学生時代に受けたかった教育」を連想しながらプログラムの中身をつくってきた。GCPに入った学生たちは期待を上回るような頑張りをしてきた（2～4頁参照）。GCP生のうち、最初の2年間

で8割がTOEIC800点を突破し、在学中に8割が長期留学を経験している。卒業した1期生から6期生までの進路先をみても、6年連続の外務省専門職をはじめ公務員、教員、大学院、グローバル企業等、進路も多彩である。卒業生の4分の1がさらなる学びを求めて大学院に進学し、なかにはオックスフォード大学やジョンズ・ホプキンス大学といった世界的に著名な大学院で学ぶ卒業生もいる。今年の3月、GCP1期生から2名の博士が誕生した。

1学年在籍者の2%足らずのGCP生に教育資源を投入するのはなぜだろうか。私は、これまで手薄になりがちだった優秀層向けの教育は、「Discover your potential 自分力の発見」を掲げて個性を伸ばそうとする本学の理念にも合致し、さらにはGCPがパイロットケースや起爆剤となることで、他の教育プログラムや他学生に好影響をもたらすことにあると理解している。そこで波及効果があると思える点について、3つの視点から整理していきたい。

第1は、学習コミュニティの広がりである。GCPでは学生は実力をつけようと徹して学び、学生同士が切磋琢磨し、それを教職員や先輩学生がサポートする学習コミュニティが形成されてきた。そうした学習コミュニティは、GCP以外でも学内の随所にみられるようになってきた。

第2は、「他流試合」への挑戦である。実に多くのGCP生が国際会議や内閣府の国際交流事業、国際機関へのインターン等のいわゆる他流試合に挑戦し、世界中の青年層と交流している。そうした経験はGCP以外の学生にも波及し、次々と国際会議等に挑戦している。

第3は、世界市民教育のさきがけという点である。本学では2014年には国際教養学部が誕生し、文部科学省のスーパースーパーグローバル大学創成支援事業にも採択された。2018年からは共通科目に世界市民教育科目群ができ、全学生が共通科目として履修できるようになった。

本学がめざす「創造的世界市民」の輩出をめざし、これからも学生と教職員が一体となってオナーズ・プログラムのもつ可能性を追求していきたいと考えている。

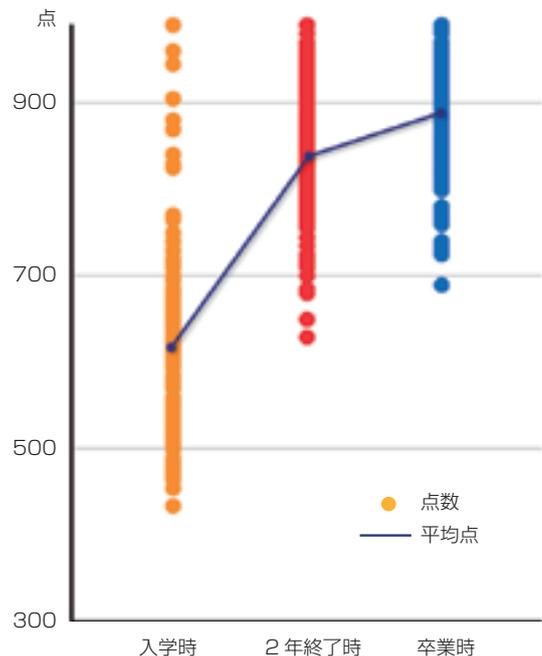
GCPで鍛える英語力

GCPの2年間のカリキュラムによって育成される能力は、アカデミックな論理的思考力・問題解決力、数理統計処理能力と実践的な英語力である。2年間の短期間で学生の英語力を徹底して伸ばすため、予習、復習を含めた授業課題は応じて膨大なものとなる。学生は寸暇を惜しんで英語の勉強に取り組み、2年間で顕著な英語力の向上を果たしている。

英語力の指標として、例えばTOEICのスコアを見てみよう。2018年度までに卒業したGCP生1期生（2010年度入学）から5期生（2014年度入学）の148名の学生のTOEICスコアは2年間で平均231点上昇している。最もスコアが伸びた学生は、入学時より415点アップしている。約8割の学生が800点を超え、3割が900点に達している。

2年間のプログラム期間と終了後の英語力の伸びと比べてみると、3年次以降から卒業までに向上したスコアの平均点は39点であった。学生にとって2年間のGCPの学びが、英語力の修得にいかにより大きな影響を与えていたかを示している。

TOEIC スコアの推移



GCP開始時から2年終了時、卒業時の最高スコアの変化。入学時から2年終了時まで、スコアの分布と平均点いずれも大幅に上昇している。

世界に羽ばたくGCP生

GCPの教育目標の一つは、異なる文化や価値観などを理解し、多様性を尊重することのできる世界市民の育成にある。学生はGCPの授業を通して、視野を広げ、世界の関心と興味を一層深めていく。特に、GCPでは、1年次終了時の春季休暇に、GCP生全員が参加する2週間の海外研修を実施している。1年次での海外経験は、GCP生の大きな刺激となり、長期の留学に挑戦する意欲となっている。

1期生から8期生（2017年度入学）までのGCP生233人のうち、留学を経験した学生（留学中を含む）は186人であり、実に8割の学生が留学していることになる。留学先も英語圏にとどまらず、多様な地域、国に留学しており、29カ国55大学・機関に及ぶ。

GCP生は、留学中も大学での学びに留まらず、積極的に現地での学びに挑戦している。ケニア・ナイロビ大学に留学した学生は、留学中に現地企業のインターンシップを行い、取り組む姿勢が評価されプロジェクトの責任者を任された。「GCPでの学びは、英語力等のスキルだけでなく、留学中での様々な経験に挑戦する志につながっている」と語っている。

◆北南米、欧州

アメリカ：デラウェア大学、ジョージ・メイソン大学、マサチューセッツ州立大学、ジョージア州立大学、ケネソー州立大学、メアリー・ボールドウィン大学、アメリカ創価大学、カナダ：プリンス・エドワード・アイランド大学、カルガリー大学、ブラジル：パラナ連邦大学、フランス：ノバンシア、オーストラリア：クラークフルト大学、イギリス：ウェストミンスター大学、クイーンズ大学ベルファスト、バーミンガム大学、ブルガリア：ソフィア大学、ロシア：ウラジオストク極東連邦大学、チェコ：マサリク大学、デンマーク：デンマーク南大学、リトアニア：ミコラス・ロメリス大学

◆アジア・オセアニア

中国：北京大学、清華大学、廈門大学、上海大学、武漢大学、吉林大学、台湾：国立政治大学、中国文化大学、香港：香港大学、香港中文大学、韓国：慶熙大学、成均館大学、フィリピン：フィリピン大学、デ・ラ・サール大学、アテネオ大学、イースト大学、タイ：タマサート大学、チェラロンコン大学、マヒドン大学、インドネシア：インドネシア大学、シンガポール：南洋理工大學、マカオ：マカオ大学、マレーシア：マラヤ大学、インド：デリー大学、インド池田女子大学、ネパール：トリブバン大学、ベトナム：ハノイ国家大学、オーストラリア：シドニー大学、ラ・トロップ大学、グリフィス大学、ブルネイ：ブルネイ・ダルサラーム大学

◆アフリカ

ケニア：ナイロビ大学、アメリカ国際大学、ザンビア：ザンビア大学、南アフリカ：ウィット・ウォーターランド大学

世界の課題に果敢に挑戦

GCPは、1年次秋学期より、3セメスターにわたり、課題発見力、問題分析力、問題解決・提案力を高めるプログラムゼミを開講している。学生は、日本を含め世界が直面する問題に目を向け、問題の要因を多角的な視点から丁寧に考察する力と問題を解決するための実践的な提案を行う力を高めることに取り組んでいる。2年次の終了時には、地球的な課題の解決に向けた提案を行う「成果報告会」を開催している。課題解決の提案は、学生が実際に実現できることを立案することに重点を置き、NGOなどの活動団体にインタビューなども行い、提案をとりまとめている。

成果報告会で発表された提案の中から、毎年幾つかが実施され、学生が現地へ赴いて活動を行っている。これまでに実施された活動には、パレスチナ難民女性の「収益向上のための刺繍プロジェクト」、カンボジアの湖水の水質改善のための「空心病プロジェクト」、ザンビアの「栄養改善教育プロジェクト」、インドネシアの「下痢罹患率改善プロジェクト」、インドでの「鉄欠乏性貧血の改善プロジェクト」などがある。実際にプロジェクトを実施することを通して、立案時に気づけなかった新たな学びを得る機会にもなっている。



インドネシアの下痢罹患率改善プロジェクト

現地の小学生を対象とした「リサイクル石鹸を使った手洗い教育プロジェクト」をガジャマダ大学と協力して実施した。学生は8ヶ月間の事前準備を経て、2週間にわたり現地に滞在し、啓発活動用の教材、歌やダンスを現地学生と一緒に作成した。活動に参加した学生は、「困難なことも多くあったが、諦めずに学生なりの方法で取り組んでいくことで、目の前の地球的課題の解決に貢献する喜びを強く感じた。また、何よりも『誰のため』『何のため』にプロジェクトを行うのかを真剣に考え抜くことが、より効果的な解決策の提案に繋がることを深く学んだ」と語っている。

国際会議等に日本代表として参加

GCPで習得した英語力やロジカルな思考力、リーダーシップ力を試すために多くの学生が“他流試合”に挑戦している。これまでにGCPの6割の学生が、在学中に国内外の国際会議や国際学会に参加している。国際会議の中には、選考の際に英文エッセイやインタビューなど高い選考基準を定めている会議もある。

国際会議の場での世界の青年との交流は、世界に友情を広めるだけでなく、物事を考える新たな視座に気づき、自身の課題を見つめる機会ともなっている。そして、GCP生は、世界の青年の知性と人格に触れることで、一層の学びの意欲を高めている。

世界銀行が2018年に米国ワシントンDCにおいて主催したユースサミットに参加した学生は、「勇気を出して自分の意見を主張し、周りから賛同を得られた経験は大きな自信となりました。GCP2年間の挑戦が自身の可能性を大きく広げてくれました」と語っている。

GCP生が参加した国際会議等

ノーベル平和賞受賞者世界サミット、G8世界サミット、Girls20サミット、世界大学総長協会総会、国際開発ユースフォーラム、国連防災世界会議Children & Youth Forum、日米世界学生会議、日露学生フォーラム、COP学生会議、日本・中国青年親善交流事業、日中韓ユースフォーラム、日中学生会議、アジア開発銀行年次総会アジアユースフォーラム、東北アジア青年フォーラム、日本アフリカ学生サミット、ハーバードアジア国際関係プロジェクト、内閣府国際青年育成交流海外青年派遣、内閣府グローバルユースリーダー育成事業、世界銀行Youth Summit、STeLA Leadership Forum、対日理解促進交流プログラム、TOMODACHI MetLife Women's Leadership プログラム、Peace Conference of Youth、国際連合政治・平和構築局国際ワークショップ、国連持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム、国連『文明の同盟』グローバルフォーラム、他

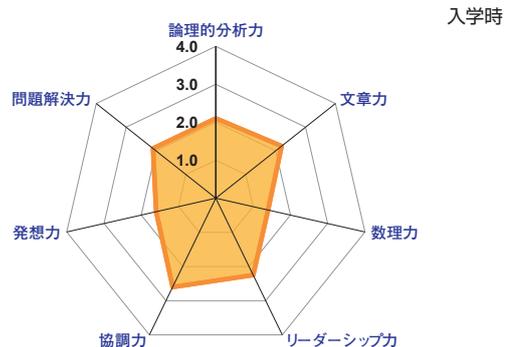
学生による学びの自己評価

GCP生の学びの原動力になっているのは、学生自らが学びの成長を実感できるからであろう。TOEICをはじめとする英語スコアの伸びも勿論であるが、「プログラムゼミ」や「社会システム・ソリューション」の授業をとおして、汎用的なアカデミックスキルを修得していることも、学習のやりがいを高めている。

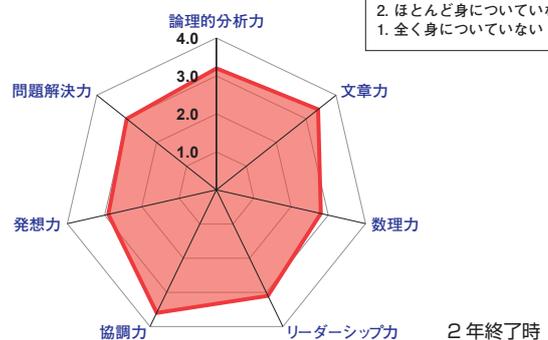
GCPでは、入学時と2年終了時に、学生の学修到達度を評価するため、学生による自己評価を行っている。項目は、論理的分析力、問題解決力、協調力、数理力などを含み、2年間の学びを総合的に評価することを目的としている。

1期生から8期生までを対象とした評価では、いずれの項目も2年間に向上していることが見られるが、入学時では自己評価が低い数理力と発想力が顕著に伸びていることが見て取れる。「社会システム・ソリューション」による数理・統計処理能力を高める取り組みや創造的な思考を促しているプログラムゼミの授業効果が表れていると言える。GCP生は、基礎的なアカデミック能力の修得をもとに、3年次以降はより専門的な学びに挑戦をしている。

学修到達度自己評価



4. 身につけている
3. やや身につけている
2. ほとんど身につけていない
1. 全く身につけていない



多様な学生の進路

GCPと学部の専門性の学びを活かし、GCP生は、多様な進路を勝ち取っている。卒業生の25%にあたる4人に1人が国内外の大学院に進学を果たし、外資系企業や国内主要企業への就職、公務員、教員等の採用試験に合格するなど実に多彩である。

海外大学院は、ジョーンズ・ホプキンス大学やオックスフォード大学など世界トップレベルの大学院をはじめ、コスタリカにある国連平和大学大学院のデュアル・ディグリープログラムなど、卒業生は将来の夢を目指して学問と研究に挑戦している。

6期生までの卒業生からは、外務省専門職6名、弁護士2名、公認会計士1名を輩出し、都道府県庁の採用試験にも毎年GCP生が合格している。

企業就職は、外資系や国内の東証一部上場企業の採用も多く、企業就職においては、長期留学や国際会議への参加などの学外での積極的な活動が評価をされている。

世界市民として社会に貢献してゆく卒業生のこれからの更なる活躍が期待される。

◆海外大学院

ジョーンズ・ホプキンス大学大学院、南カルフォルニア大学大学院、イリノイ大学大学院、モンレー国際大学大学院、オックスフォード大学大学院、サセックス大学大学院、ストックホルム大学大学院、ハイデルブルグ大学大学院、シドニー大学大学院、国連平和大学大学院、他

◆国内大学院

東京大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、北海道大学大学院、広島大学大学院、一橋大学大学院、沖縄科学技術大学院大学、創価大学大学院、他

◆企業就職

ゴールドマン・サックス証券、アクセンチュア、日本IBM、デロイトトーマツコンサルティング、プライスウォーターハウスクーパーズ、日本マイクロソフト、ファイザー、ジョンソン・エンド・ジョンソン、三菱東京UFJ銀行、三井物産、日立製作所、パナソニック、富士通、味の素、日産自動車、三菱自動車、昭和シェル石油、日本電波工業、他

◆公務員等

外務省専門職、大阪府庁、神奈川県庁、富山県庁、横浜市役所、他